

職業性疾患・疫学リサーチセンター

関西支部ニュース

発行責任者 水嶋 潔

東大阪市高井田元町1-3-1

みずしま内科クリニック内

TEL06 (6781) 3330

<http://oe-rc-kansai.sakura.ne.jp>

結成1周年 関西支部第2回定期総会を開催 広がる交流～「夕涼みの縁台」に

7月10日、結成から1周年を迎えた関西支部は、定期総会を開催。会場の大阪コロナホテルに16団体・59人が参加しました。

最初に総会を記念して、国立病院機構山口宇部医療センター呼吸器外科の岡部和倫先生より「悪性胸膜中皮腫の診断と治療」の講演。岡部先生は、胸膜外肺全摘手術を5年間で28例という国内でもトップの実績を持つ山口宇部医療センターでの取り組みから、悪性中皮腫の診断が難しいこと、中皮腫の最新の治療方法、さらに腫瘍の完全切除を目指す「胸膜外肺全摘術」について説明されました。とりわけ、パワーポイントを用いての解説の合間に「胸腔鏡下胸膜生検」や「胸膜外肺全摘術」の様子を撮影したビデオを上映していただき、貴重な映像に参加者は食い入るように見入っていました。



講演する岡部先生

【講演の全文は近日発行の「社会労働衛生」に掲載されます】

記念講演の後、議長に滋賀県建築組合の安井さんを選出し、総会の議事に入りました。最初に水嶋支部長より、この1年間を振り返っての報告。また、この一年、定例会議でも大きな話題となっていた「胸膜プラーク」や「じん肺と間質性肺炎」の診断をめぐる問題について、スライドも交えて説明がされました。

続いて酒井事務局長が、本部からのメッセージを紹介した後、議案に基づき「この一年間、



運動の広がりを確認した定期総会

走りながら体制をつくり、手探りで活動を進めてきたが、定例の会議を重ねるごとに充実してきており、会員各団体における活動の前進に寄与しつつある」などと、この一年の活動報告と新年度の事業計画について提案。その後の討論では、大阪じん肺アスベスト弁護団、京建労、関西労働者安全センター、神戸土建の各加盟団体より、この一年を振り返っての活動報告がされました。安全センターの片岡氏からは「支部に参加することによって、運動の視野が広がった。お互いの力になっていると思う」との感想も出されました【各報告の要旨は2～3頁】。

議案は全会一致で採択され、新年度の役員も承認。小林副支部長の「様々な立場でがんばる人たちがワイワイと集まり、元気をもらって各団体の活動が前進する～『夕涼みの縁台』のような活動に」との閉会あいさつで第一部の総会は終了しました。

引き続いて、第二部は懇親会。足立副支部長の進行で、全参加団体より自己紹介がされるなど、交流を深めました。

7月10日 結成総会 参加状況 (16団体・59人参加。順不同)

全建総連関係29 (滋賀建築4、京建労9、大建労3、兵庫県連2、兵庫土建1、阪神土建6、神戸土建2、徳島建労2)、建交労三重1、建交労徳島1、ひょうご労働安全センター6、患者と家族の会4、関西労働者安全センター1、大阪じん肺アスベスト弁護団11、アスベスト関西訴訟弁護団1、みずしまクリニック2、個人2、講師1

関西支部第2回定期総会・・・各団体の活動報告

○大阪じん肺アスベスト弁護団（村松昭夫）

現在、弁護団員54名で泉南国賠訴訟の他、多数の企業相手の個別事件に取り組んでいる。

大阪・泉南アスベスト国賠訴訟の控訴審は6月1日に審理を終え、8月25日午後2時に判決が言い渡される。弁護団では勝訴を確信しているが、近隣ばく露も含め、今度こそ全面的な解決を勝ち取るべく、国に上告を断念させる運動を展開していく。

国と建材メーカーを被告とする集団訴訟に6月の京都に続いて、大阪・兵庫でも10名の被害者が7月13日に大阪地裁に提訴予定。泉南国賠訴訟が、石綿被害の原点を問う裁判であるとすれば、建設アスベスト訴訟は、我が国最大のアスベスト被害を問う裁判。首都圏など全国のたたかいと連帯し、引き続き被害者の掘り起こしを積極的に進め、たたかいを広げていきたい。



○全京都建築労働組合（久保田江美）



京都では石綿肺ガンがなかなか労災認定されない。1年間で7件中6件不支給。私が関わったのは5件。それも初担当のケースから5件連続不支給。当初「私が関わったのが原因では」と落ち込んだが、この背景に、画像所見での「胸膜プラーク」が認められていないこと、また全国平均70%台の石綿肺ガン認定率が京都では30～50%という事実。同じ認定基準でこの格差は大問題。ある局医は私に「プラークについて議論する気はない。石綿小体などの数値で勝負すべきだ」と放言した。手術出来ず「画像プラーク」でしか勝負せざるを得ない、多くの建設労働者を「見殺し」にする発想だ。

私たちの要請を受け、京都局管内では、画像診断で請求人側の医証と局医の見解が分かれた場合は全件、本省の「石綿確定診断等事業」に判定が委ねられることに。私の担当で6件目。初めて認定がとれたケースは、京建労アスベスト健診で、肺がん発症前からプラークを指摘され、主治医も「胸膜プラークとっていい」と言い、さらに、水嶋先生より「胸膜肥厚斑」との意見書をいただ

き申請したもの。それなのに「確定診断等事業」に診査依頼された。つまり、局医独り「所見なし」。無事、認定される。ついに局医の判定が覆った。

現在4人が再審査請求中。まさに正念場。「救済漏れは許さない」の立場で、不支給事案の逆転勝利に向け、行政訴訟も視野に入れながら、あらゆる努力を行っていきたい。

○関西労働者安全センター（片岡明彦）

水嶋先生のご協力のもと、労災請求の支援等を行う。主な認定事例は以下の通り。

- ・昭20年代の木炭車整備、建設・解体工事従事によるじん肺の男性、「管理2」続発性気管支炎。
 - ・49年間の溶接・溶断作業によるじん肺の男性、「管理2」続発性気管支炎。
 - ・平和工業の元保温工、公立病院で私病療養中の男性、「びまん性胸膜肥厚」と診断し認定。
 - ・日本カタン枚方工場の元鋳造工、じん肺管理3ロで健康管理手帳交付の男性2名、改めてじん肺検診を実施して申請し「管理4」。
 - ・元日本インシュレーションの下請で肺がん死亡、石綿新法救済給付を申請。
 - ・元ボイラー建設労働者の石綿肺がん、水嶋先生のアドバイスで広島中央署で認定。
 - ・造船所下請け溶接工の肺がんの遺族から相談、水嶋先生のアドバイスで申請、時効救済認定。
 - ・船員の肺がん、水嶋先生の意見書を添え審査請求中。
 - ・石綿肺がん、自営期間が長く労災が困難な事例。水嶋先生に読影を依頼し、石綿救済法で認定。
- このほか、健康管理手帳申請のための検診や読影、ニチアス損害賠償訴訟についての専門的アドバイスをいただきました。



○神戸土木建築労働組合（小林 智）

石綿健康管理手帳による健康診断の問題点について報告したい。

Kさん（68才 土木・解体）より「息苦しい。過去に石綿を吸っている」の相談を受け、病院に同行した結果、異常はないが胸膜プラークありとのことで、石綿健康管理手帳を取得。この間、S

病院で年2回の石綿健康管理手帳の健診を受診。そして、たまたまKさんより連絡を受け、平成22年12月に水嶋先生に診ていただき「間違いなく肺ガンでしょう」。S病院で緊急入院、手術された。一方、組合で労災申請し無事認定。Kさん「S病院長に『8月の石綿健診を受けた際にちらっと影があったんや。あの時見抜けなくてごめん』と言われた。水嶋先生のおかげで助かったけど、S病院があのにきちんと検査し、早く手術しといてくれたら・・・」

既に石綿健康管理手帳を取得され、定期受診していたAさん（74歳）より相談。その手帳を見てビックリ。平成20年3月の健診時の判定で「石綿肺疑いあり」、その後の健診で「胸膜プラーク有」「間質性肺炎」と判定されていた。私は「石綿肺であることは間違いない」とその

時思い、Aさんに「健診を受けている病院から、精密検査は勧められていないか？」と訊くと、特に何も勧められていないという。現在、労災認定も視野にいれつつ職歴調査の段階。その後、その健診機関に問い合わせたところ、担当者から「Aさんみたいな人いくらでもいますよ」と言われ愕然。更に私は「Aさんに、もっと呼吸器関係で詳しい病院とか紹介しないんですか？」と問い詰めたところ、「先生の判断ですから。」とたった一言だった。

この2例をふまえ、兵庫労働局に「石綿健康管理手帳で診断を受けて、精密な検査が必要な場合でも、してもらえないのか？」と確認すると、担当者から「そんなことはない。但しあくまでも病院の判断」という。労働局交渉でも改善を求めている。

総会で確認された 関西支部 2011年度事業計画

①調査研究事業

全建総連傘下各組合と共同し、レントゲン再読影事業を引き続き拡大して、建設労働者における健康被害の掘り起こしと被害の実態解明を進める。

京都、大阪、阪神土建、徳島に続き、2011年度より、滋賀建築、奈良建築、和歌山建労、神戸土建、2012年度より兵庫の全組合が再読影事業に参加。

読影費用は当面1枚300円とし、統一の「再読影シート」を活用する。読影料金は全額リサーチセンターの収入として、その運営に活用。

②情報収集・提供事業

定例会議での「事例検討会」を引き続き充実させる。

「胸膜プラーク」「間質性肺炎とじん肺」など、テーマごとの研究会・シンポジウムなどの開催も検討。

事例を集約し、各府県の労働局・労基署への申し入れも検討。

③保健相談事業

各地域での講演会や保健相談事業などを検討。

④教育事業

医師に対する読影能力の向上、医療従事者の塵肺など職業性疾患に対する理解と対応能力の改善へ、取り組みの具体化を進める。当面、京

都での“塵肺セミナー”開催の具体化。

⑤広報・啓蒙事業

広報誌「関西支部ニュース」は季刊発行を基本に発行（8月・11月・2月・5月の予定）。

ホームページの充実を図る。会員のみなさんからの改善の要望や、寄稿を。

医療関係者を中心に幅広く啓蒙活動を進めるため、「社会労働衛生」や海老原先生の出版本の普及を図る。また、関西支部独自の出版活動も検討する。

選出された役員のみなさん（敬称略）

◎常任委員（三役）

- ・支部長：水嶋潔（みずしま内科クリニック院長）
- ・副支部長：足立司（阪神土建労組委員長）
- ・副支部長：小林邦子（大阪塵肺アパスト弁護団）
- ・事務局長：酒井仁巳（京建労書記次長）

◎運営委員：各加入団体より代表1人

- ◎監事：神田（ひょうご労働安全センター）
仲（建交労）

- ◎事務局：酒井・久保田（京建労）、小林（神戸土建）、石毛（阪神土建）、野路（クリニック）、渡辺（建交労）

※事務局は引き続き、補充していきます。

- ◎本部理事：水嶋、足立、酒井

リサーチセンター加入団体紹介③ 徳島県建設労働組合

徳島県建設労働組合（略称、徳島建労）は、徳島県内の建設職人・親方の組合として46年前に結成され、現在7300人の仲間が加入しています。

徳島県では振動病やトンネルじん肺など職業病の被災者救済へ民医連や建交労による先駆的な運動がすすめられてきました。

徳島建労は2005年のクボタショックのあと2006年から、民医連の病院にお願いし、アスベスト検診をスタートさせ、受診者も急速に増加。国保のレセプト抽出では、2006年に中皮腫の患者が見つかり、労災申請を行い9ヶ月後の2007年3月に組合として第1号の労災認定となりました。これまでに3人の中皮腫患者の労災認定がされましたが、いずれの仲間も残念ながら既に他界しています。

会報第2号で報告されたように、水嶋先生には2010年に2630人分の胸部レントゲン再読影をお願い



石綿被害救済者へ、徳島県へ申し入れ（8月10日）

いし、先生から結果が知らされた時には、所見の出された仲間の数に驚きの声が出されました。結果を仲間に戻しながら、水嶋先生の個別相談会や講演会を開催し相談活動もすすめてきました。

2010年度はじん肺4件申請し管理2が2件、健康管理手帳は10人申請し10人取得。水嶋先生に再読影を依頼し、石綿関連肺がんの意見書が出された左官の仲間について主治医に協力を求め労災申請を行うことが出来、発症した7年前にさかのぼって労災認定されました。7月にも肺がんを発症した大工の仲間の再読影で石綿肺、プラークが発見され、意見書を主治医に渡し要請しています。

8月10日には徳島県に対し、アスベスト被害者の掘り起こしと対策の強化、被害者の早期救済についても申し入れを行いました。参加した仲間は「建設で働く仲間は被害者なんだ。対策の強化をすすめてほしい」と強く訴えました。

これからも仲間の命と健康を守る運動として、リサーチセンター関西支部や全国の仲間の経験に学びながらアスベスト対策に取り組んでいきます。

今、原稿を書いている、阿波踊りの鐘の音が聞こえてきました。皆さんも、ぜひ、徳島の暑い夏も体験してみませんか。

（徳島建労 福田 茂）

《事務局だより》

【活動日誌 2011年5月～2011年7月】

- ・第10回定例会議：5月23日、京建労会館。7団体9人参加。活動報告、事例検討、総会準備など。
- ・リサーチセンター本部第9回定期総会：6月12日、東京グランドホテル。参加＝水嶋・足立・酒井。
- ・働き方を見直す京都集会：6月26日、ラポール京都。12人参加。水嶋支部長が講演。
- ・第11回定例会議：6月28日、関西安全センター、9団体12人参加。総会準備、事例検討など。
- ・第2回定期総会：7月10日、大阪コロナホテル、16団体59人参加。
- ・リサーチセンター建設協議会：7月11日、しばぞの診療所。参加＝久保田。
- ・第12回定例会議：8月18日、10団体14人参加。今後の活動内容、事例検討など。

【当面の予定】

- ・第13回定例会議：9月27日（火）午後3時～、神戸土建労組

○定期総会も終わり、新年度は決意も新たに事業の前進を図りたいと思います。

○6月に京都で、7月には大阪で、建設労働者が国と建材メーカーを被告に相次いで提訴。8月には泉南アスベスト国賠控訴審の判決。これらのたたかいにはリサーチセンター加盟各団体が先頭に立ってがんばっています。アスベスト被害の全面救済に向け、みなさんのご理解・ご支援を！

○本誌への投稿をどしどしお寄せ下さい。 ※投稿受付アドレス⇒ h_sakai@kyokenro.or.jp